



# はなもみじ

平成22年  
12月17日

屋代  
小学校

春秋ごまごま旬うなり

## 懇談会をこれからに生かして ~ これまでのがんばりを次の目標に ~

### 学校でのがんばりをお伝えしました。

個別懇談会では、まず、学校における学習面や生活面での取組の様子について、**努力してきたこと・成長してきたこと**等を具体的にお伝えしました。そのために担任は、普段から活動の姿や成績物をしっかりととらえておき、子どもを**丁寧によく見ていくこと**に心がけています。

### 家庭での様子をうかがいました。

次に、家庭での生活の様子や成長してきた姿も、お聴きしたことと思います。その中から、担任は、保護者の方の**願いや期待、ときには、悩みごとや不安についてもうかがい知ることができた**と思います。

### 学校と家庭のつながりを大切にしましょう。

こうした話し合いで、**担任と保護者が信頼でつながることができれば**、子どもはよりよく成長していくものです。「先生はよく見てくれている」「家庭は本当に学校に協力してくれている」という思いをお互いがもつことで、この子をもっと成長させるための**共通の課題が見えてくる**ことでしょう。

### これからの具体的な手だてを共有しましょう。

課題があるからこそ、目標が生まれ、成長もします。課題解決の具体的な手だてをともに考え、明るい見通しがもてた懇談であったことを願っています。懇談会后、学校でも家庭でも、子どもさんと一緒に課題について考え、**子ども自身が具体的な目標や活動を自分の口で言うことができれば**、本当に価値のある懇談であったといえます。通知票を手渡されたお子さんが笑顔になり、これからもがんばろうと思えるようにしてください。

### 大勢の目で見守っていきましょう。

学校では、担任だけでなく、**多くの先生がかかわっていくこと**が大切であると考えています。校長、教頭、担任以外の先生にもご相談ください。



校内図工展をあわせて開催

### 最近の学校生活から



読書旬間の締めくくり、12月16日(木)読み聞かせボランティアの方々によるテレビ放送があり、楽しいひとときを過ごしました。

発達障害のある子どもの中には、知識は豊富でずっと話し続けることはできるけれど、実際の体験に乏しく、その場になると自分がどう振舞ってよいか分からないという子どもがいます。例えば、清掃の場面でも、やるべきことがはっきりしないと始めることができないため、さぼっていると誤解されることも少なくありません。



## 清掃は心を育てる

今回は  
年末大掃除にちなみ

今回は、『掃除』は子どもの心の発達にいい影響を与えるという話です。

清掃に使う道具は何か、どこから持ってくるのか、水くみや洗剤は必要か等、段取りをします（はじめは一緒に行い、次第に任せます）

手順を確認し、何から始めて何までで終わりになるかをはっきりさせます（必要であれば、手順表や日めくり式の絵カードを用意します）

やる前とやった後とがはっきりわかる活動の方が取り組みやすくなります（ぞうきんをかけると床の色が変わる、片付けたものが見えなくなる等）

範囲を決めて、その中だけを清掃する等、無理なくできる量を行います（広い部分の草取りも、区画を決めて少しずつ取る方法もあります）

こんな具合に準備をすすめていけば、掃除への抵抗感が減ります。



汚れたものをきれいにする行為は、美しいものを愛する心を育みます。これは生活態度や人間関係に至るまで、いやしいことや醜いことを嫌う心を培うことになります。

また、きれいにしたことをほめられると、嬉しくなり、自信がつきます。友達や先生と掃除することで、結びつきや連帯感も深まります。自尊心が育ち、自立心・自主性が身に付くのです。自分のしたことに誇りを持ち、何かをやり遂げた達成感、充実感を知ることできます。掃除をがんばるうちに、何事にも意欲的に取り組める子になるのです。

掃除をきちんとすすめてきれいにするには、上記のように、手順や段取りを決めたり、分類したりする計画性が必要です。これも物事を抽象化して考える力を養います。そして、何より道具を使うことで、手指の巧緻性や目と手の協応動作も身につくのですから、いいことづくめです。

体を動かす体験からさまざまなことを学びましょう。

